

令和2年度 学校評価 報告書

報告日
令和3年3月19日

幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
園長名	山中 朱美 印

1 今年度の重点目標

- 1 感染症対策を行いながら、例年より質を落とさない保育の推進
- 2 幼児の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
- 3 津波浸水危険区域に立地する幼稚園の防災教育の研究

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

○評議員会及び学校関係者評価委員会を、書面で行った。
 ○保護者アンケートを実施、集約し保護者へ結果を周知している。
 ○園だよりや、学校評価アンケートの資料などで評価を依頼したが、「評議員に評価を依頼するなら、評議員会は開催すべきで、資料提示されても評価が非常に難しい」との意見もあった。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	学校自己評価結果及び改善方策についての評価
1	教育課程	1 2	○運動遊びでは、幼稚園再開後は友達同士が接触しない、物を共有しないという条件で遊びを工夫した。「ソーシャルディスタンス」を逆に遊びに取り入れた。 ○実施できなかったプール遊びにかわる遊びを例年より充実させた。(どろんこ、みずでっぼう、舟づくり、泡遊びなど)他にも「みやようのうえん」「クスノキプロジェクト」など新しい取り組みを行った。 ○感染状況が落ち着いている期間は、手洗いを徹底して、多少のふれあいや道具の共有をしながら、例年と変わらない活動にもっていった。 ○支援が必要な幼児や、クラスの特徴を踏まえて、誰もが平等に参加でき、わかりやすいルールを工夫した。	B	○最初はこわごわ遊びを進めたが、基本的な感染症対策をすることで、ほぼ例年と変わらない遊びを進めていける。 ○家庭で体を動かす機会が通常でも減っているのに、コロナ禍でもっと減ったというアンケート結果もあった。幼稚園での運動遊びは非常に重要である。 ○幼児の特性を鑑みた、クラス全体が楽しめるルールを工夫することが、教職員の中で定着してきた。今後もこの理念に基づき、ユニバーサル保育を研究したい。	○コロナ禍の中で、様々なことが中止になる中、「できることはなにか」「どうやったらできるか」を考えて取り組んだことを評価する。 ○これまでの「当たり前」をみなす機会にもなり、様々な工夫が見られた。 ○教育評価の結果は保護者との信頼関係の結果である。参観等がでにくく、園の生活が見えにくい今だからこを、「発信」がとても大切である。
2	安全管理	3	○2年間の積み重ねをふまえて、おおむね完成した年間計画に基づいて進めた。今年度は4月5月の休業、6月の分散登園などで、計画を2学期から実施し、宮小との合同避難訓練以外は1学期分も含めて実施することができた。 ○浜町自治会の方を避難訓練や防災行事、防災研究会に招き、体験を共有し、意見交換などを行った。	B	○防災教育年間指導計画を、宮川幼稚園の教育課程に組み込む。 ○地域(浜町自治会)との連携が進み、今後も幼稚園の避難訓練、防災行事や研究会に参加していただく。	○防災教育はとても大切である。今後も続けてほしい。 ○地域(自治会)との連携を大切にしていきたい。

5 総合的な学校関係者評価

適切に園運営が行われている。